

VI. 補語

1. 第2文型は S = C で示すことができる

第2, 5文型の不完全動詞は補語(C) で補うことを必要とします。第2文型の不完全自動詞 (be 動詞の仲間) の働きについては,

He is a teacher [of English]^a. S = C が成り立つ
S = C

This fruit tastes good.
S = C
味がする 良い

「S と C の間に主述関係がある」が正確な表現だが、簡略化して S = C と考える

のように、自動詞の記号○の下に「=」を書いて S = C を示すことができます。

不完全自動詞 (be 動詞の仲間)

be 動詞 : be, am, are, is, was, were

become (～になる), remain (～のままである), turn (～になる)

look (～のように見える), grow (成長して～になる)

seem (～のように見える, ～のように思われる)

feel (<人が>～の感じを覚える, <ものが>～のような感触をもつ)

taste (～のような味がする), smell (～のにおいがする)

sound (～のように聞こえる)

不完全自動詞は
「be 動詞の仲間」
と覚えておくといいよ



- be 動詞の後に「場所」, 「時」を示す副詞 (句) が来る場合は, be 動詞が「居る」, 「ある」という意味の完全自動詞であり, 第1文型となります。

She is [in the kitchen]. 完全自動詞 (第1文型)
居る 台所に

↓ 前置詞が省略された副詞句 (副詞的目的格)

The meeting was [last week]. 完全自動詞 (第1文型)
あった 先週

2. 典型的な第5文型は O = C で示すことができる

典型的な第5文型の不完全他動詞の働きについては、

We call that mountain Sakurajima.
S V O = C

O = C が成り立つ
O と C に主述関係がある、とも言える

のように、O と C の間に「=」を書いて O = C を示すことができます。

不完全他動詞（典型的な第5文型を作る動詞）

- call（一を～と呼ぶ）
- consider（一を～とみなす）
- elect（一を〈選挙で〉～に選ぶ）
- find（一が～であることを見つける）
- keep（一を～の状態に保つ）
- leave（一を～のままにしておく）
- make（一を～にする）
- name（一を～と名付ける）
- think（一を～と思う）

不完全他動詞は
「第5文型を作る動詞」
と覚えておくといいよ



3. 目的語なのか補語なのかは、まず動詞で判断する

まず、第2文型を作る「be 動詞の仲間」と、「第5文型を作る動詞」を、一通り頭に入れておくことが望まれます。それらしき動詞の後に名詞句あるいは名詞相当語句（代名詞など）が来た場合は、S = C あるいは O = C の「=」が成り立てば補語であると判断できます。

He became a professor. S = C が成り立つ
S = C

We consider him a great scholar. O = C が成り立つ
S O = C

英文中で、目的語や直接目的語の位置に名詞句、名詞相当語句がある場合、動詞がそれに対して（それを目的語として）作用しているような意味で理解できない時は、動詞を辞書で引いて、SVC、SVOC の用法がないか確かめるのがいいでしょう。